

第34回議会報告会（研修会）

日 時 令和3年2月13日（土） 午後1時30分～午後4時
場 所 中央公民館講堂
実施内容 オンライン研修会
講 師 龍谷大学政策学部 土山 希美枝 教授

第1部 講演「コロナ禍中、議会ができること、すべきこと」

(1) 「ゆっくりやってきた災害」としてのコロナ禍

今までの自然災害のような災害は局所的被害だが、感染症の場合は世界中が被災地である。すぐ近くの人から被害をもたらされる可能性が考えられることから、分断につながる。

(2) 「対面で話し合えない」状況と議会の対応

集合して対面で話し合うことができない状況が、年単位で続く。多少落ち着いたとしても、基礎疾患があるなど対面での話し合いに出られない市民が多くいる。そのためにも、代替手段を用意する必要がある。

被災している状況、コロナ禍で、3月、6月議会では質問時間を短くするという議会も多かった。大阪府茨木市の例→共通のコロナ対策の質問をする議員間で協議し、質問を集約し、代表者がより効率的な質問をした。コロナ禍であっても、論点を絞った質問を行う。

審議など必要なことは早く回復する一方、議会報告会は中止が多かった。報告会は不要不急なのか。代替手段をとってまでも開催しなくていいのか。議会と住民の交流について、北海道議会の技術研究会の調査結果から、住民主催の行事等への出席減や報告会等の交流会の中止、報告会等での三密回避実施などが示された。

(3) 議会として果たすべき責任とその対応

自治体が住民に必要な政策・制度をよりよく整備していくために、議会の責務をどう果たしていくのか。議会の政策目標は、コロナ禍であっても、わがまちの政策・制度を今までの議論をつなぎあっていい状態にする、議会があるから行政だけよりもよい状態であるという市民からの評価を得ること。政策議会として議論を重ね、そのプロセスを市民に公開し市民と歩む。

オンラインは、対面と完全に同じような効果は持てないが、補足などオンラインだからできることがある。普段顔を合わせてきた関係性がある場合は Zoom のツールは便利。

(4)「議会として」どう市民と向き合うか

緊急時だから議会は行政の邪魔をしてはいけないと言われるが、議会は黙っていてもよくない。心配しているのは、コロナによるばらまきが政策になってしまい、政策的発想ができなくなってしまうこと。首長がそういう提案をしてきた時に議会はできないと言いつけられるだろうか。

議会の価値をダンピングしない。コロナ禍でも議会の活動を自粛せず、意思形成しないといけなことはたくさんあるし、こういう時だからこそ拾い上げないといけな声はたくさんある。直接対面ができないからといって、全くやめてしまうのはよくない。

IT/ICT の活用をする。最初の1回をどう越えるか。

(5)議会の活動を伝え、市民との関係を構築するために

何のための広報、広聴の機会なのかを意識して、人々との関係をつなぐことを積み重ね、市民との関係性を構築していく。コロナ禍だからといってその積み重ねをやめてしまうと、自分との関係性の積み重ねをやめたと考えられてしまう。交流会等開催する場合は感染防止対策を行いながら開催する旨を明示して開催する。それが難しい場合は、IT/ICT というツールを活用し、対面とオンラインの併用をしていくなどの方法もある。

第2部 グループワーク

A～Eまでの5グループにわかれて、3つのテーマについてグループワークを行った。

テーマ① 議員としてコロナ禍でできたこと、できなかったこと

【Aグループ】

市民相談を事務局を通じて相談。歯痒かった。途中からは、感染防止をしながら、工夫をしながら、市民の声を集めて当局に届けることができた。皆さんの意見を聞く場合、情報提供の場もなかった。行事もなく寂しい感じがした。議員の役割は？と悩んだ時期もあった。SNSを使う勇気がなかったが、今後は挑戦して見ようと思う。自粛の中活動が制限された。市民の苦境に対して対応できなかったジレンマがある。ICT化はこの1年で重要性がわかった。リスクコミュニケーションの場として議会は大事。

【Bグループ】

直接会えないことが多くなり、電話や手紙を活用した。イベントや会合が少なくなり会う人が限られた。定期的な街頭宣伝などで議会報告などを行なっている。感染に関する個人情報を含む相談をどこまで、市に伝えたり、情報提供ができるのか悩んだ。

【Dグループ】

議員としてコロナにより、個々との関わりとなり、集団としての地域との関わりが難しくなった。行政に提言するにあたり地域の意見を届けるのに苦労した。市民との情報共有が難しく、自身の行動に悩んだ。世間での議員の行動が市民から問われた。業界の意見を取りまとめ届ける役目。

【Eグループ】

想像もつかないことが起きた。それによって市民の命や財産を守る事がどれだけ難しいかがわかった。災害対策 BCP が作られていてよかった。自粛で感染してはいけないという気持ちが高く、行事の参加の仕方がわからなかった。会う機会をどうするか悩むところ。マスクや消毒液の対応が早急にできなかった。市民に感染者がでたときの市民への対応が悩むところ。

テーマ② 講演や報告を聞いた感想

【Aグループ】

- ・多様な市民へどのようにコミュニケーションを取るかという工夫。
- ・「議会をダンピングしない」というメッセージは共感した。このような状況で具体的にどうすれば良いか？
- ・土山教授は市民との関係性を以前から説いていただいている。議会は不要不急ではない。
- ・議員個人や、会派としての活動も大切だが、議会としての政策提言を行えるようにしたい。

【Bグループ】

議長を中心とした議会活動が大切と実感した。知立は一般質問の中止をしなかったことはよかった。報告会が中止になった場合にオンラインの活用をしていくことで、新しい参加者を得る機会にもなる。

【Dグループ】

議会の価値のダンピング。ICT化の中でハガキというツールを使用すること。蓄積にはマイナスもある。

テーマ③ 議会として来年度備えること、やるべきこと

【Aグループ】

議会で議論したことを市民に報告すること、市民の声を議会に反映させていくことはやはり大事。市民参加から市民参画へ。

どうしてもリアルで対面できないのであれば、他の先進議会のように、Zoom や Youtube を活用した議会報告会、意見交換会も検討してみたい。

【Bグループ】

最悪の事態を想定して、本会議が開催できない場合やオンライン委員会の想定をしておかなければいけない。知立市議会はオンライン委員会を条例化しているので、練習をして行くことが大切。

【Cグループ】

議会報告会が出来ないこと、議員活動が制限されてしまったために今までの活動が正しかったのかを考えさせられました。今までのような、来ていただける報告会というものより、地域に向く活動が市民から求められている。今まで繋がれなかった市民と繋がりを持てるように。

【Dグループ】

プラスの蓄積を重ねていくため、継続した発信が必要。議会がある程度まとまっていなければならない。激しい政治対立を引き起こしている議会は議会ですとまとめることが不可能では。議会改革特別委員会での活動が議会運営を円滑にしている。

【Eグループ】

今後「議会不要論」にならないように非常時だからといって専決処分を出させないよう議会で精査していくことの大切さを考えていく。高齢者も ICT 化に対応できる環境を整えていくことが重要。それらも含めて議会として迅速な意思決定が大事。